

2026年度 獣医学研究科 博士課程 第2期入学試験問題  
(必修： 獣医薬理学 )

【出題の意図】

1. ネコ、イヌ、ブタで欠損していることで知られる第II相反応酵素を書きなさい。

獣医薬理学、毒性学分野で重要な種差の原因は不明であるが、代謝酵素の種差が大きな役割を果たしていると考えられている。この点に関して、最も基本的な知識を問う。

2. アセトアミノフェン毒性の機序について簡単に説明しなさい。

NSAIDsは催奇形性を示すことから、アセトアミノフェンは妊婦に投与可能な唯一の解熱鎮痛薬である。しかし、アセトアミノフェン投与は過量で肝毒性を示すことが知られており、シトクローム P450 の代謝産物が関与していることが教科書でも記述されている代表例である。基本的な薬の作用としての知識を問う。

3. サリドマイドによる催奇形性の動物種差について簡単に説明しなさい。

サリドマイドは成体に対しては非常に安全であるが、催奇形性を示す。しかもその催奇形性はウサギとサル、ヒトでのみアザラシ肢症という特徴的で痛ましい。顕著な種差の例であるので、基本的な知識を問う。